

【評価の観点】 : ① 目標, 指標, 計画等の設定の適切さ ② 達成状況評価 (自己評価) の適切さ ③ 目標達成に向けた取組の適切さ ④ 評価結果の分析の適切さ ⑤ 次年度へ向けての改善方策の適切さ
 【評価の基準】 : 4・・・達成度 100%以上 3・・・達成度 80%以上～100%未満 2・・・達成度 60%以上～80%未満 1・・・達成度 60%未満

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	自己評価						
				時期	目標値 (%)	到達値 (%)	達成度 (%)	評定	説明	
確かな学力	学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の見方・考え方を働かせる授業を展開し、児童に単元で付けた力を身に付けさせる。 児童が「分かる」授業を行う。本時に身に付ける力を明確にし、それを達成できる授業を行う。 授業を見合う日を設け、事後に協議し、改善点を明らかにする。 	①国語科・算数科の単元末テストにおける到達度をそれぞれ85%以上にする。 ②国語科・算数科のまとめテストの総合得点において、目標値を上回る教科の割合を80%以上(12教科中9教科以上)にする。	9月	①85 ②80					
				1月	①85 ②80					
豊かな学力	学習意欲の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 児童が問いをもつための仕掛けを工夫したり、つまづきに対して丁寧に手立てをしたりして学習の動機づけを行う。 「分からない」「困った」などと言える学級づくりを行う。また、「分からない」と言えることや最後までやりきることを価値づけていく。 	「学習を最後までやりとげて、うれしかったことがあります。」「今学習していることや体験していることは、将来役に立つと思う。」「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しています。」の肯定的回答を80%以上にする。	9月	80					
				1月	80					
豊かな心	自分のよさを知り、他者を大切に育てる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体を通じて、「自分ができたこと・がんばったこと」「友だちががんばっていたこと・いいなど思った行動」を紹介し合う場を設ける。 結果よりも努力や挑戦の姿勢を価値づける声かけを行う。 キャリアログを活用して、意識を高めさせる。 	「自分にはよいところがある」「友だちのいいところを認めている」と肯定的に回答する児童を80%以上にする。	9月	80					
				1月	80					
健やかな体	健康・安全を守るもとに、体力・運動能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導や学級指導を通して、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。 特に「起床時刻・就寝時刻・家庭学習時間・メディア時間」の目標が守れるよう、スタディーウィーク週間を設け、年間2回行う。 スタディーウィーク週間は、生活チェックカードを毎日提出し、声かけを行う。 	自分で決めた「メディア時間」(平日・土日)を守る児童を80%以上にする。	9月	80					
				1月	80					
信賴される学校	地域・保か頼る学校をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びを推奨するとともに、体育環境委員会主催による全校レクを実施し、楽しみながら体力・運動能力の向上に努める。 体育科の授業において、原則毎時間サーキットトレーニングを実施する。 体力テストに向けて自分の課題を理解し、課題解決に向けて努力させるとともに、自分の記録が伸びたことを称賛する。 	① 体力テストでAB判定になる児童の割合を75%以上にする。 ② 体力テストの結果により、重点項目を定め、種目を再測定し、全国平均値を上回る児童を75%以上にする。	9月	①95 ②95					
				1月	①95 ②95					
信賴される学校	保護者の学校の取組に対する満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域実態や学校規模を生かし、特色ある教育内容を展開し、保護者や地域のニーズに応える。 年間2回のアンケートにより、児童・保護者の学校の取組に対する満足度や意見を把握し、教育活動の工夫改善に生かす。 	① 「これからの社会に役立つ力が育っている」保護者の肯定的回答を95%以上にする。 ② 「保護者・地域と協働して子どもの健やかな育成に取り組んでいる」保護者の肯定的回答を95%以上にする。	9月	①95 ②95					
				1月	①95 ②95					

